

早期去勢/不妊について (2~5ヶ月での実施)

誰もが、小さくかわいい子犬や子猫を欲しがります。しかし、それらが成犬・成猫に成長したときも同じでしょうか？ 里親が一番つき易いのは、生後1~3ヶ月の間で、まだ抱きしめたいほど小さくかわいい時なのです。

日本中には、捨てられた子犬・子猫の里親探しに多くの時間と沢山のエネルギーやお金を費やしている、本当の意味での動物愛好家のグループ、もしくは、個人がいます。この方たちの大きな努力が無ければ、多くの動物が苦しみ処分されていくのです。子犬・子猫が大きくなる前、外見のかわいさがあるうちに、里親がつくと、彼らは責任が果たせたことで安堵します。でも、そうでしょうか？

里親と確実に連絡を取り、もらわれていった子犬・子猫が、6ヶ月までに去勢不妊されたことを確認できることもあります。多くはそこまで出来ないのが現状です。里親がついた子犬・子猫のうち1匹でも妊娠すると、彼らの努力は悲しく無駄に終わるのです。

アークは、早期去勢不妊は、過剰出産と処分という悲劇的な結末を減らす上での、唯一の実行可能な解決策だと考えています。また、アークでは、すべての動物を、年齢や性別に関係なく保護するために、里親にもらわれていく前に去勢不妊を施します。アークの誰もが、将来ペットが過剰になり、その結果不幸な子が出来ないように援助を行っているのだと確信しています。これまで、子犬・子猫の縁組みは賭けのようなものでした。アークの手続きは厳しいもので、里親は真実を受けた動物の去勢不妊を6ヶ月までに施さなければならぬ旨の誓約にサインしなければなりません。その後は、電話で確認し獣医師の証明を求めます。しかしながら残念なことに今までに経験から推察しますと、なかなか約束が守られているとは言えないようです。10人中8人は、手術を行っても、もし他の1匹が逃げ出し、それがまた、1匹以上出産しようものなら、元のもくあみどころかそれ以上に悪い状況になってしまうのです。不妊していない雌猫1匹からは、その相手と子孫たち、それらが、年に2度交配し、一度に2~8匹の子犬が生まれます。(それ以外は、事故や病気で性的成熟にいたるまでに死亡します) それらを合算すると、

- 1年で 12匹
- 2年で 67匹
- 3年で 376匹
- 4年で 2,107匹
- 5年で 11,801匹
- 6年で 66,088匹
- 7年で 370,092匹
- 8年で 2,072,514匹
- 9年で 11,606,077匹

となります。

(PET SAVERS基金調べ)



雌猫が実際、年に3度妊娠し、その生存率が高ければ繁殖数はより多くなります。それゆえ、誓約は100%確実でなければならず、それにはただ、早期去勢不妊を行うしかないのです。

子犬・子猫に麻酔を必要とするような状況は多くはありませんが、日本の数人の獣医師は、成犬・成猫になるまでに、通常の方法で麻酔を施した例をかなり経験しています。生後8週目の動物と、8ヶ月目のそれは単に小さいというだけではなく、呼吸器官や薬物代謝にも大きな違いがあります。獣医師の多くは、ある程度成長した子犬・子猫、成犬・成猫に施してきた麻酔・手術工程に満足しており、方法を変えることに難色を示します。

早期去勢不妊の概念は、今や目新しいことではありません。この原理は北アメリカだけでも、1900年初頭には知られており、すでに25年以上も実際に行われています。生後5~7ヶ月までにペットを去勢不妊することは、いかなる特定の医学的理由というよりも、むしろ、慣習的に確立されてきたものです。以前は安全な麻酔技術が確立されていなかったため、手術の安全性を高める意味で、ある程度成長するまで待ったものでした。しかし、現在では麻酔技術が進み、もはやそうする必要がなくなりました。

猫の早期去勢不妊の研究は、フロリダ大学がアメリカ獣医学協会と共同で行ない、その研究は十分にモニターされ、子猫が性的成熟に達する前の去勢不妊は、有害な副作用はなく、7ヶ月目と7週間目で去勢を行った猫を比較しても、肉体的・行動的違いがないという結論でした。また、若い子猫は、手術後更に早く回復しました。

早期去勢不妊と麻酔の安全性は公表・出版されました。また、生後7週目と7ヶ月目で去勢不妊を行った子犬が比較され、いずれの年齢での去勢不妊も、肉体的、骨格的、行動的発達において同様の結果でした。去勢不妊は、食物摂取量や体重増量にも影響を及ぼすこともありませんでした。また、去勢不妊は成長の妨げになるところか、むしろ、生後7週目の子犬の成長をわずかながら高めることができるのです。

マサチューセッツ動物虐待保護協会のマイケル・アーロンソン博士は、普通、生後6週間で、子犬に早期去勢不妊を施しています。アーロンソン博士とスタッフは、なんの有害な副作用もなく、何百匹の子犬を去勢不妊してきました。オレゴンのメッドフォードのアニマル・シェルターでは、子犬・子猫を8千匹以上を8~12週間目で去勢不妊し、何ら悪

影響はなかったとしています。

早期去勢不妊を行おうとしている、数名の優れた獣医師とアークは親交があり、生後2~3ヶ月で子犬・子猫、雄雌ともに去勢不妊を行いました。それらの子達はすべて健康で、手術以後数時間で食欲が戻り、活発に遊び回るといふ若い動物らしい行動で、驚くべき速さで回復しました。このことは、早期去勢不妊の安全性を物語る証拠として十分であるといえます。

(早期去勢不妊が、その安全性を広く承認・証明されたとはいえ、世界各国においての手術の技術には格差があることに注



意していただきたいと思います)

アークには、早期去勢不妊について参考となる雑誌、およびインターネットのページも用意しています。興味をお持ちの方には情報をご提供致しますので、どうぞ御利用下さい。



Everyone loves and wants little puppies and kittens, but when they become dogs and cats will they still be wanted? The peak age for rehoming is between 1-3 months when animals are small, cute and cuddly.

All over Japan there are well-meaning animal lovers working in groups or as individuals who spend a lot of time, energy and their own money finding homes for abandoned puppies and kittens. Without their dedication many animals would suffer a terrible death. They feel relieved and happy when an animal finds a home before it gets too big and loses its cute appeal, their responsibility is now over - But is it?

While some undoubtedly keep in contact with the new owners and make sure the puppy or kitten is neutered at 6 months, many fail to follow up this VITAL after-check. If just ONE of these rehomed puppies or kittens reproduces, their efforts have sadly been in vain.